

クラス	Q308	担当教員	早川 すみ江
テーマ	心の病への理解と精神分析的枠組みに基づく観察と考え		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】『開業臨床心理士の仕事場』（共著）金剛出版 2012、『パーソナリティ障害の精神分析的アプローチ―病理の理解と分析的対応の実際』（共著）金剛出版 2009</p> <p>【論文】「スクールカウンセリングにおける親面接の意義」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 10,2015）、「断絶していた依存的自己部分との接触の回復―スキゾイドパーソナリティの女性との心理療法過程―」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 9,2014）、「心理療法過程におけるクライアントの内的変容について―病理構造体をもつパーソナリティ障害女性の3回のロールシャッハ・テストを通して―」（日本福祉大学心理臨床研究センター紀要 8,2013）ほか</p> <p>【研究課題】「精神分析的な心理療法過程の中で起きる転移・逆転移およびクライアント/セラピスト間の交流のあり方に関する研究」「ロールシャッハ・テストと心理療法過程の中で精神力動との関係に関する研究」</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：心の病、精神分析学、内的世界、対人関係の相互作用			
<p>【目的】 このゼミでは、心の病と精神分析学について学ぶ。心の病への理解を深め、その回復の過程について学ぶとともに、そうした心の病に陥る予防的手だてとして、精神分析的枠組みに基づき日常で起きている対人関係の相互作用をよく観察し、それについて深く考え、人との関係の中で起きるさまざまな現象について検討していく力を培うことを目的としています。</p> <p>【内容と授業計画等】 心の病とその回復過程について学習するために、まず様々な心の病を理解し、その回復を助けるひとつの手段としてリワークについて学びます。また3年前期の終盤には、心療クリニックのリワークに参加しているメンバーさんたちと一緒にレクレーションをおこない、それまでの学びの理解を深めるための体験学習を行います。</p> <p>そうした学習と並行して、精神分析学の中でも特にクライン派対象関係論について学び、人間の内的世界のあり方や対人関係の相互作用の中で起きている現象を理解するための理論的枠組みを学習します。その後、ワーク・ディスカッションという手法を用いて、日常で起きている対人関係の相互作用を関与観察した素材を用いて、そこで何が起きているのかをグループ・ディスカッションを通して、検討し、深く考え、そしてそこから情緒的に学ぶことを目指します。</p> <p>こうした体験学習やグループ・ディスカッションを通して、人間の心や対人関係の相互作用に関して自分が興味を持つテーマを見つけていきます。文献・資料の収集と整理、および発表、討論を通して、テーマに関する文献・資料の集め方、まとめ方、発表の仕方なども学んでいきます。こうした作業を行いながら、3年の後期には各自の卒業研究のテーマを具体化していきます。</p> <p>そして4年次には、各自がそれぞれの研究テーマに沿って研究を進め、お互いの研究を発表し、討論し合いながら、お互いによりよいものに仕上げたいと思っています。</p> <p>対人援助職に携わる場合、どんな現場でも必然的に人間の相互作用がともないます。そこで起きることを表面的にとらえ、処理するのではなく、その現象の奥にある人のこころや無意識のコミュニケーションについて思いをはせ、考えること、そして自分自身のこころや感情に向き合うことのできる人になってほしいと思っています。そうした力が、ストレスに負けない柔軟な心を養うことにつながるものと思います。</p> <p>受身的にすぐに答えを求めるのではなく、わからないことについて主体的に深く考え、考え続けることをいとわぬ姿勢を期待します。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>精神分析や人間の心、無意識に関心があり、そうしたことについて深く考えてみたいと思っている人を待っています。各個人の卒業論文のテーマは、必ずしも精神分析と関係していなくても構いません。自分自身が見つけた問題意識を追及していくお手伝いをします。またディスカッションは苦手という人も大丈夫です。半年もすれば結構自分の考えを気楽に話せるようになります。</p>			